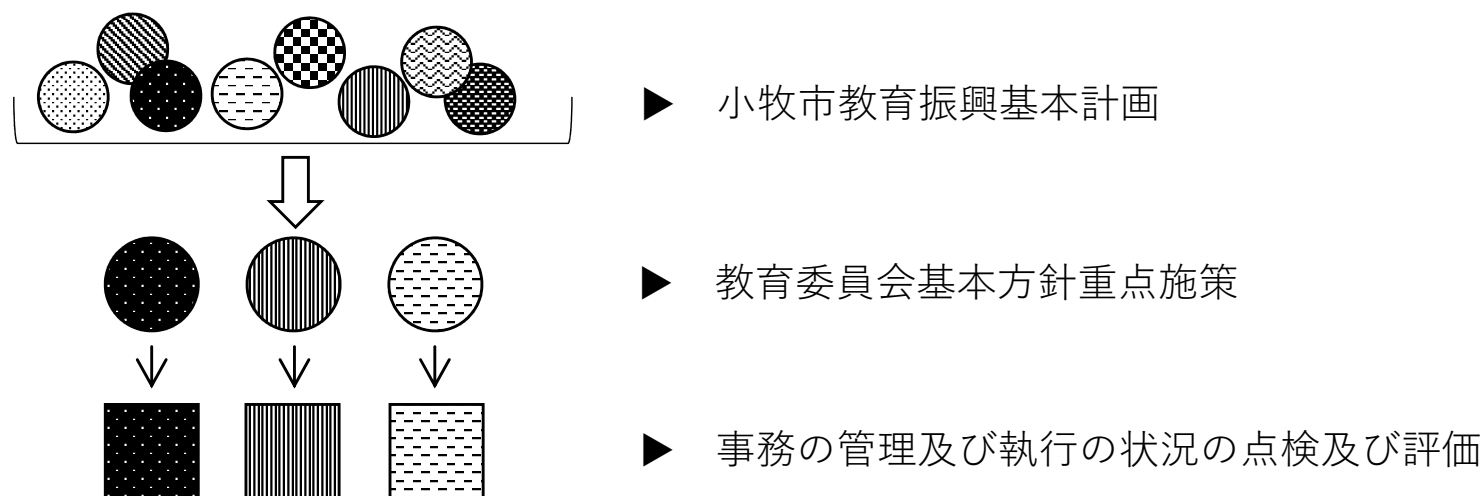


# 令和4年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

資料1

事務の管理及び執行の状況の点検及び評価と

教育委員会基本方針重点施策 について



教育委員会では

**小牧市教育振興基本計画**にある事業のうち

年度ごとに重点的に取り組む事業を選定し、**教育委員会基本方針重点施策**としてまとめています。

重点施策は年度末に実施状況を点検・評価（=**事務の管理及び執行の状況の点検及び評価**）します。

今回は、文化・スポーツ課所管の事業の点検・評価をスポーツ推進審議会で行います。

審議会の意見を反映した実施状況は、評価委員会で重点施策の全ての事業とあわせて点検・評価されます。

## 小牧市教育振興基本計画評価指標（基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開）

指標名	基準値	目指す方向性 (目標値)	R1	R2	R3
週1回以上適度な運動をしている成人市民の割合	46.1%	65.0%	52.2%	53.1%	53.6%
健康づくりのために、スポーツに取り組む必要があると考えている成人市民の割合	82.6%	↗	87.4%	87.3%	86.7%
健康づくりに関連した運動教室などへの参加者数	1,232人	↗	1,329人	225人	412人
スポーツ教室などへの参加者数	6,600人	↗	6,909人	2,108人	2,459人
スポーツ指導者登録者数	298人	↗	291人	295人	288人
指導者を対象とした研修会などへの参加者数	254人	↗	168人	0人	183人
市が管理するスポーツ施設における維持管理上の不備による事故件数	0件	→	1件	0件	0件
市が管理するスポーツ施設の年間利用者数	988,001人	↗	835,301人	349,651人	384,257人
パークアリーナ小牧メインアリーナの利用率	78%	↗	75%	76%	75%
パークアリーナ小牧サブアリーナの利用率	86%	↗	84%	84%	85%
南スポーツセンターグラウンドの利用率	36%	↗	31%	39%	42%
2026年に愛知県でアジア競技大会が開催されることを知っている市民の割合	21.1%	↗	13.1%	11.9%	16.4%

# 令和4年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価 対象事業（令和4年度小牧市教育委員会基本方針重点施策）

## 基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

<p>施策25 誰もが楽しめるスポーツ活動の推進 スポーツ教室の開催</p>	<p>小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携して市民スポーツ教室を開催し、広く市民がスポーツに親しみながら健康や体力を増進する機会を提供します。</p>
<p>施策26 こどものスポーツ活動の充実 こども対象のスポーツ教室の開催</p>	<p>子どもたちが幅広くスポーツに親しむため、小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携し、各種目のスポーツ教室を実施します。</p>
<p>施策26 こどものスポーツ活動の充実 地域部活動の検討</p>	<p>休日の部活動を地域部活動として、地域の多様な指導者の活用を図るとともに、子どもたちの休日の運動機会を確保するため、地域部活動の導入について検討を進めます。</p>
<p>施策28 市民のスポーツ活動を支える環境整備 スポーツ施設の環境整備</p>	<p>新たな多目的グラウンドを整備することにより、市民がよりスポーツに取り組みやすい環境を整備します。</p>
<p>施策28 市民のスポーツ活動を支える環境整備 新施設予約システムの導入</p>	<p>オンライン予約やキャッシュレス決済などの機能をもたせた新たな施設予約システムを導入し、利用者の利便性向上を図ります。</p>

## 「スポーツ教室の開催」実施状況

(内容) 小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携して市民スポーツ教室を開催し、広く市民がスポーツに親しみながら健康や体力を増進する機会を提供します。

小牧市スポーツ協会等と連携して各種スポーツ教室を開催し、市民がスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツの楽しさや正しい基礎技術を習得することで、市民の体力向上と健康増進を図りました。

※実施状況は別紙参考資料1-1,1-2のとおり



### 課題

- 定員に満たない教室が多くある状況です。新型コロナウイルスの影響により、運動機会が減少している市民等に向けて参加を働きかけていく必要があります。
- 地域スポーツ教室は令和3年度と比較すると実施回数等が増加しましたが、地域によって実施状況に差が出ています。

### 今後の取組

- 若年層や新規参加者を獲得するため、LINEなどのSNSを活用し、スポーツ教室の情報を市民へ発信していきます。また、参加者のニーズを把握し、開催時期や時間、種目等を検討します。
- 地域スポーツ団体やスポーツ推進委員等と連携して、ニュースポーツの普及を図るなど新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ地域スポーツの推進を図ります。

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開 - 施策26 こどものスポーツ活動の充実

## 「こども対象のスポーツ教室の開催」実施状況

(内容) こどもたちが幅広くスポーツに親しむため、小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携し、各種目のスポーツ教室を実施します。

親子ふれあい体操教室や小牧市スポーツ協会主催のジュニア体操教室などを開催し、こどもたちが楽しくスポーツ親しむ機会を提供しました。

※実施状況は別紙参考資料1-3,1-4のとおり



### 課題

- あそび運動教室は親子を対象として、未就学児と小学校低学年向けとして2回開催しましたが、申込者数が定員に満たない状況です。周知の方法等を検討する必要があります。
- こどもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、継続してスポーツに取り組んでもらう必要があります。

### 今後の取組

- 教室に参加したこどもたちにジュニア育成活動などの周知を行い、短期的な教室で終わらせることなく継続して運動することができるよう案内していきます。
- 引き続き、加盟競技団体やスポーツ推進委員等と連携し、こどもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、スポーツに関心を持ってもらうきっかけとなるよう努めます。

## 「地域部活動の検討」実施状況

(内容) 休日の部活動を地域部活動として、地域の多様な指導者の活用を図るとともに、子どもたちの休日の運動機会を確保するため、地域部活動の導入について検討を進めます。

学校部活動の地域移行を検討するため、小中学校部活動検討委員会等を開催しました。

### 検討状況

- 令和4年10月28日(金) 第1回小中学校部活動検討委員会  
議題：中学校部活動休日の地域移行について
- 12月26日(月) 第2回小中学校部活動検討委員会  
議題：今後の「部活動のあり方の検討」の進め方について

※その他研究会を2回開催

## 課題

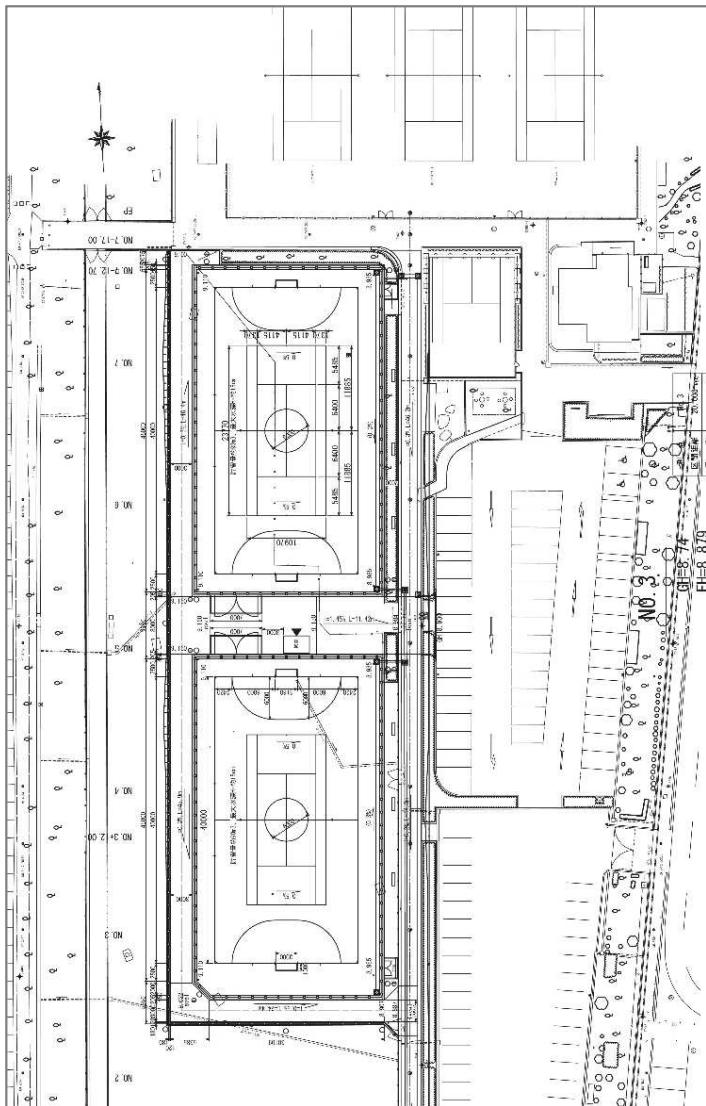
- 生徒数の減少等により学校単位の部活動を維持していくことが困難な状況にあります。
- 競技経験のない部活動の指導や休日部活動の指導など教師にとって大きな負担となっています。
- 学校部活動の地域移行に伴い、指導者の量を確保する必要があるとともに、指導者としての資質も高めていく必要があります。
- 活動場所、用具の確保や責任の所在など、さまざまな課題を整理しておく必要があります。
- 保険料や指導員への謝礼など、受益者負担について検討をする必要があります。

## 今後の取組

- 国、県の動向及び近隣市町村の状況を把握するとともに、市内小中学校の教員・外部指導者・関係団体・保護者・生徒等へアンケートを行い、部活動に対する考えや現状を把握します。
- 引き続き、検討委員会で部活動のあり方について検討を進めていきます。

## 「スポーツ施設の環境整備」実施状況

(内容) 新たな多目的グラウンドを整備することにより、市民がよりスポーツに取り組みやすい環境を整備します。



### 全体スケジュール

R 4  
設計

R 5  
工事

R 6  
運用

### 達成状況

- フットサル及びテニスの兼用ができるコートの選定、照明の照度、雨水貯留施設等、各種仕様の検討を行いました。

### 課題

- 既存サッカー場やテニスコートの利用状況から、コートの割振りなどの運用方針を検討する必要があります。
- 近隣市町村を参考に適正な料金設定を検討する必要があります。

### 今後の取組

- 令和6年度の運用開始に向けて工事が順調に進行するよう監理・監督していきます。
- 新たな施設を多くの方に利用していただけるようホームページ・広報等での周知を行います。

## 「新施設予約システムの導入」実施状況

(内容) オンライン予約やキャッシュレス決済などの機能をもたせた新たな施設予約システムを導入し、利用者の利便性向上を図ります。

### 新施設予約システムで導入する主な新機能

#### オンライン予約

電話か施設窓口のみで可能であった施設予約が、インターネットを通じて24時間365日、利用者自身のスマートフォンやパソコンから予約が可能になります。

#### キャッシュレス決済

窓口現金のみであった決済手段が、オンラインで予約した場合、クレジットカードによるオンライン決済が可能になります。

#### オンライン抽選

毎月初日に各施設で行っていた抽選会が、決まった日に施設へ行かなくてもオンラインで抽選の申し込みから当選確認まで可能になります。

#### ペーパーレス

利用時に施設へ提示していた許可書などの書類を省略し、スマートフォンなどの予約確認画面を提示することで利用可能になります。



令和5年1月の稼働を目指し利用者への周知や事前利用者登録の促進を行いました。その結果、令和4年12月末の時点で1,542の団体と827人の個人利用者の事前登録申請がありました。

### 課題

- システムを更新することによって、インターネットへの接続環境がない利用者やスマートフォンの操作が慣れない利用者が不便にならないよう運用等でカバーする必要があります。

### 今後の取組

- 稼働後に利用者から寄せられるご意見を基に、利用者がより使いやすいよう改善に努めます。
- 施設予約システムに限らず、利用者の利便性向上に努めます。